

5. 本州中央高地並びに北鮮の高山に知られるクロボスゲは今迄歐洲の *C. atrata* にあてられて居たが、実はそれとは大變相違したもので、むしろバイカルからモンゴル・中央アジアに知られる *C. perfusca* に似たものである事がわかつたので学名を *C. atrata* ssp. *perfusca* var. *japonalpina* と改める事にした。広義のクロボスゲは北半球の高山や極地に広く分布して居り、非常に多くの型に分化して居る。之等は、しかし、或程度地理的に統一がとれたもので、私は地理の上と形とから歐文中に示した5つの亜種を認めたいと思う。それ等を第3図の模式図中にフルタイプで記した。この5つの亜種それぞれの中に變種とすべきものが幾多記述されては居るが、それ等を全部整理するには尙現在資料不足である。兎も角クロボスゲは一時北半球を広く覆つた氷期の植物で現在高山に残つて、孤立の爲相當に分化したスゲの一つであると考えられる。

6. スルガスゲ (杉本順一氏命名)——ヒメカンスゲ系の一品で、駿河安倍峠で見出された。採集者の大村敏朗氏を煩わして現地を見たがナンブスゲ・カンスゲを産するのみで、勿論こんな高い所 (1400 m) にはヒメカンスゲはなかつた。鳥居喜一氏が本種を三河段戸山で採つて居られた事を最近知つた。

ハシナガカンスゲ (大村氏及筆者)——支那から中央亜細亜にかけて多い *Frigidae* の一品。邦産ではイハカンスゲ・シャウジャウスゲ等のグループであるが外形はオホシマカンスゲに稍近い特異な一品である。果胞から云うと支那産の *C. scabrirostris* に近い。甲斐樽崎で大村敏朗氏採集。(第一図版)

Errata 正 誤 (Vol. 30. no. 5)

p.	ligne	au lieu de il faut lire	
129	8	montrons	montre
	16	anthera	anthela
note au bas de la page		nationale	national
130	10	ad	ac
	27	ile	île
131	15	foemineis distat.	foemineis longe pedunculatis pendulis praecipue distat.
	17	nudosos	nudos
132	8	noua	nova
133	2	lls	Elles
	14, 24	Duvariana	Duvaliana
136	29	jopol	japon